

# 『登別市水道事業ビジョン』を策定しました。

▼問い合わせ 水道グループ (☎855510)

水道事業をとりまく環境が厳しくなる一方で、水道利用者から信頼される水道供給をめざして、老朽化した施設の更新や自然災害に対する備えなどを計画的に進めていく必要があります。

このため、今後の課題や方向性などを明らかにしたうえで、50年、100年先を見据え『安全』、『強靱』、『持続』の観点に基づき、平成28年度から平成37年度までの10年間に取り組むべき事項や基本的な考え方を示すため、『登別市水道事業ビジョン』を策定しました。

本ビジョンの策定にあたっては、学識経験者や水道利用者の方々で構成された『登別市水道ビジョン検討委員会』の検討内容、また、『水道利用者に対するアンケート』の結果を踏まえて行いました。

今号では、ビジョンの概要をお知らせします。

## 基本理念と理想像

登別市水道事業の基本理念として関係者が取り組みを進める上での共通の目標となるように、事業の現状や地域特性などを踏まえて設定し、また、理想像として、水道のあるべき姿を示しています。

**基本理念** 暮らしを守り、信頼される水道供給を目指して  
～登別の未来へつなぐ安全な水道～

**理想像**

### 安全

需要者が、いつでも安全な水を飲める水道

### 強靱

水道施設の適切な管理運営のもと、耐震化や危機管理体制の充実が図られ、被災した場合であっても迅速に復旧できる水道

### 持続

給水人口や給水量が減少した状況においても、健全かつ安定的な事業運営が可能な水道

## 水道事業の沿革と施設概要

市の水道事業は、登別温泉上水道、幌別上水道、鷺別上水道として、昭和32年から昭和35年にかけて創設し、昭和55年の区域統合により登別市水道事業として現在に至り、約55年が経過しています。

水道事業の施設は、3カ所の浄水場（うち1カ所は室蘭市と共同使用）、11カ所の配水池、5カ所のポンプ場があり、水道管路は約290<sup>千</sup>kmに及びます。

## 現状評価と課題のまとめ

水需要の動向として重要な指標となる給水人口は、平成17年度時点で52,672人でしたが、平成26年度には49,504人となり、本ビジョンの目標年度である平成37年度には44,820人にまで減少する見通しです。このことから、一日最大給水量も給水人口の減少に伴い減少傾向を示す見通しです。

また、現在の財政状況において、必要な施設整備を進めた場合、赤字経営となる見通しです。

この対策として、企業債借入額や施設整備費用の抑制、料金体系の見直しなどが考えられますが、将来を見据え慎重に検討する必要があります。

これらの結果から、6つの課題を抽出しました。

課題	課題の具体的な内容
①老朽化施設の対策	・登別温泉浄水場、幌別浄水場、主要配水池が今後10年の間に耐用年数を迎えること。
②老朽管の対策	・今後10年間で耐用年数を迎える管路を更新すると、年間約9 <sup>千</sup> kmの更新が必要となること。
③耐震化対策	・登別温泉浄水場や、幌別浄水場、主要配水池の一部を除いて未耐震化なこと。
④登別温泉浄水場の対策	・急激な原水の濁度変化に対応できないこと。 ・他系統からのバックアップルートが確保できていないこと。
⑤幌別浄水場の対策	・高速凝集沈澱池の容量が不足していること。 ・老朽化が著しく、未耐震化であり、電気設備の補修部品が無いこと。 ・渇水期の取水量不足や急激な原水の濁度変化に対応するため、新たな水源の確保が望まれること。
⑥資金確保の対策	・給水人口、給水量減少に伴い給水収益が減少し、今後必要と思われる施設整備を実施していくと赤字経営となること。